



R.I. D.2740 JAPAN
佐世保ロータリークラブ

会長: 中村 徳裕 幹事: 福田 金吾
事務所: 佐世保市島瀬町10-12 十八親和銀行 佐世保本店内 TEL 0956-22-7720 FAX 0956-25-6323
例会場: レオプラザホテル佐世保 (毎週水曜日) TEL 0956-22-4141
http://www.sasebo-rc.jp/ E-mail: src@circus.ocn.ne.jp

令和 5 年 2 月 8 日

第 3,468 回例会

NO 21

《本日》会員数 73 名(出席規定免除 23 名)・出席 48 名・欠席 25 名・(免除者欠席 12 名)・ビジター 1 名・出席率 65.75 %

《1月25日》会員数 73 名(出席規定免除 23 名)・出席 46 名・欠席 27 名・(免除者欠席 11 名)・メイクアップ 5 名・修正出席率 82.25 %

会長挨拶

会長 中村 徳裕

みなさま、本日も多数ご出席を賜りありがとうございます。少し寒さが緩んだようですが、来週にはまた寒波がくるとも聞いております。健康に留意されながらお過ごしください。



さて、本日は、直接ロータリーの話ではありませんが、佐世保の文化についてのお話をさせていただきたいと思っています。今から30数年前、昭和から平成へという時代の変わり目に、「ふるさと創生一億円事業」があったのを覚えていますか？

当時の竹下登内閣総理大臣の政権が発案した公共事業で、全国の市町村自治体に一律1億円が配られたという事業です。今でも、ホームページを検索すると、「純金のこけし」、「触れる金塊」など、バブリーな観光目玉…ともすると無駄使いいともたられそうな当時の記録が出てきます。

さて、佐世保ではその1億円が、どのように活用されたのか？みなさま覚えていらっしゃいますでしょうか？

佐世保市では、ふるさと創生事業活用の一環として、「市民文化の構築とその担い手を育てること」を目的に「させぼ塾」を立ち上げ、そこを事務局として、様々な文化団体を補助支援しました。

当時の「させぼ塾」の運営委員として、当クラブの古賀巖パスト会長が活躍しておられ、

さらに円田昭さんのお兄様である故円田治さま、田中丸善弥さんのお兄様である故田中丸善衛さまが中心人物としてご活躍されておられたのを覚えています。

佐世保のJAZZの文化を発展させようと、「サンセット99ライブ」がこの事業の支援を受け、古賀巖さんも実行委員会で活躍されました。3度目のグラミー賞を受けた佐世保出身の世界的パーカッション奏者小川慶太氏が話題になっていますが、きっと佐世保のJAZZ文化が彼の活躍に良い影響を与えたものと思います。

また、新規文化事業としてエントリーし、一部支援を受けて創立したのが、当時の「させぼ・ふるさと夢大学」です。当時、30歳そこそこだった私は、佐世保青年会議所の先輩に、「返事は『はい！かYES！』のどっちかやけんね！」と、半ば強引に誘われて、創立当時の実行委員会に、ほぼ最年少の実行委員として参加しました。全くゼロからのスタートでしたが、創立に向けて動いている当時の実行委員会は、夢と熱気にあふれていました。

設立当初は、ふるさと創生事業である「させぼ塾」を通して、運営費用の一部に佐世保市の支援を受けていました。しかし、初代近藤正人実行委員長と当時の執行部は、3年目に、今後は自主独立で運営できると判断して「支援を返上」。4年目から「させぼ夢大学」として独立を果たしました。もし、ここで支援を返上していなかったら、きっと補助金がなくなった時点で事業は継続できなかったのではないかと思います。その後「させぼ夢大学」

は、30年以上の長きに亘って、講演会や文化活動をすすめて、地域社会の活性化を図り、コミュニティの輪を広げる活動を継続してきました。

現在、「させぼ夢大学」は、令和5年4月からの第32期の受講生を募集しています。狂言師野村 萬斎氏、早稲田大学教授 中林 美恵子氏、アパホテルグループ社長 元谷 芙美子氏、落語家 三遊亭 好楽氏、歌手 由紀さおり氏 & 声楽家 安田祥子氏の童謡コンサートなど、大変豪華な講師陣による全10回の講演会を予定しています。募集の締め切りは2月15日(水)。「早割」の締め切りは、2月10日(金)となっています。

また、来週2月15日は、創立記念日例会を予定しております。記念卓話を安部直樹パストガバナーにお願いし、お料理も記念日仕様にバージョンアップをお願いしております。ぜひ多数の皆様にご出席いただきますよう、よろしくお願いいたします。

例会記録

- ロータリーソング「それでこそロータリー」
- ビジター
佐世保南RC 池内 幸雄 さん
- 卓話者
西海みずき信用組合
地域振興室副室長 西信 好真 様

幹事報告

幹事 福田 金吾

- 1.メルボルン国際大会推進コーディネーター
田中 賢三さん(茅ヶ崎RC)
メルボルン国際大会のご案内と登録のお願い
早期登録割引が3月31日に期限
5月28日佐藤芳郎RI理事主催の日本人親善朝食会
メルボルン国際大会ホームページをご覧ください

- 2.国際ロータリー日本事務局業務推進・IT室
平和構築と紛争予防月間リソースのご案内

3.ロータリーの友事務所

代表理事 高野孫左衛門 さん

2023-24年度 ロータリー手帳お買い上げのお願い

1冊660円 5月下旬出来上がり予定

締切日 2月25日

- 4.第2610地区ガバナー 黒川 伸一 さん
(富山・石川)

地区ローターアクト委員会

委員長 中島 史享 さん

地区ローターアクト代表 中田 悠貴 さん

第35回全国ローターアクト研修会

実行委員長 近藤 友貴 さん

第35回全国ローターアクト研修会の開催
ご案内

日時：2023年3月25日(土)、26日(日)

登録受付開始11:00

登録料：15,000円

(別途、懇親会費：5,000円)

- ・1日目【開会式・代表者会議】金沢歌劇座
【懇親会】ホテル金沢
- ・2日目【中間式・メインプログラム・閉会式】
金沢歌劇座

テーマ「10年後の未来を見据えて」

ダウンロード<https://60.gigafile.nu/0302-c9fca3a421562100d7f96732da01c174b>

ダウンロード期限：2023年3月2日(木)

登録料・宿泊費等につきましては各クラブにてのご負担となります。

- 5.第2580地区名誉会長 田中 毅 さん
(2680地区PDG・兵庫県)

元会長 石井 良昌 さん
(2680地区PDG)

日本支部長 新藤 信之 さん
(2750地区PDG)

GPFR日本支部幹事 太田 清文 さん
(東京RC)

「第21回ロータリー全国囲碁大会」のご案内

日時：2023年5月20日(土) 09:30登録受付
10:00開会式
16:00表彰式と記念撮影
会場：東京・市ヶ谷の日本棋院本院
1階対局室
主催：ロータリー囲碁同好会
共催：第2580・2750地区
ホストクラブ：東京RC
参加料：7000円（昼食代、賞品代含む）
申し込み締め切り日は5月12日(金)

6. 佐世保学園長 橋本 雅彦 さん
佐世保学園パネル展オープニングセレモニー
出席へのお礼状

委員会報告

■奉仕プロジェクト委員会委員長 納所 佳民

キッザニア福岡視察報告
令和5年2月3日、私と職業・
社会奉仕委員会副委員長山口
健二さんの二名で視察に行き
ました。視察のアテンドをし
て頂いた方は キッザニア福岡事業部 営
業企画部 営業グループの梶原 聡美様で
す。



今回の視察の目的は、令和5年3月28日(火)
に当クラブが主催する事業（キッザニア見
学）へお子さんをお連れする為の事前の確
認でした。

キッザニアは「こどもが主役の街」とい
うコンセプトです。子供たちが憧れの仕事
にチャレンジをして、楽しみながら社会の
仕組みを学びます。今回は団体入場での企
画です。

入場はバス専用の降車場で降りて、スタッ
フに出迎えて頂きます。入場と退場は人数
の確認があります。大人はパビリオンには
入場が出来ません。離れた場所での見学に
なります。

大人用の待機所もあります。

※特に事前に必要な事を記します。

パビリオンは約64か所あります。出来れ

ばお子さんは事前に予習が必要です。

大凡、一つのパビリオンの体験に約30分
要します。入退場は人数のカウントをされ
ます。特に大人の途中退場は、再入場の手
続きを行って途中退場をお願いします。

フードチケットが付きます。アレルギー
の有る方は事前にお申し出ください。また、
食品の持ち込みは禁止されています。飲み
物は問題ありません。

以上が主な注意点です。

視察時も小学校の団体が施設で楽しそう
に仕事をしていました。大人の我々も大変
勉強になりました。

3月28日の見学ツアーには多くのご参加を
お待ちしております。

■インタラクティブ後期指導者研修会の報告

幹事 福田 金吾

2月4日(土)、2022-2023年度
のインタラクティブ後期指導者
研修会が佐賀のアバンセにて
開催されました。前回参加し
た財団セミナー同様、対面開
催は3年ぶりということで、少しずつ世の中
も元に戻りつつあることを実感しました。
なお、現地には時間の都合上赴けなかつた
ため、webでの参加となりました。



基調講演として、現在は第2700地区で広
報・公共イメージ委員長をお務めの田村志
朗さんによる「インタラクティブは世界を救
う～広報のチカラでインタラクティブを拡げ
よう～」との演題でのお話がありました。
現在の地区のお役職と、過去10年ほど地区
のIAや青少年奉仕委員会に携わったご経験
に基づく大変わかりやすい内容でした。特
に“広報のチカラ”の例として『いくら素
晴らしいものをつくっても、伝えなければ
ないものと同じ』というスティーブ・ジョ
ブズの言葉を引用し、『知られていないこと
は存在しないのと同じ』という説明が非常
に印象的で、我々自身がロータリーもイン
タラクティブも、もっと知り学ぶことで、様
々な行動や奉仕に繋がるといったものでした。

2部では、RYLA委員会の徳川清隆委員長より、RYLA委員会の取り組みについてご紹介がありました。今年は実に4年ぶりとなるロータリー青少年指導者養成プログラム(RYLA)が、佐世保西RCホストの下、6月10日(土)、11日(日)の二日間ホテルローレイでの開催が予定されています。

■次年度ロータリー財団 委員長 安福 竜介

2月5日(日)13:30～佐賀のホテルマリターレ創世に於きまして第2740地区のロータリー財団補助金管理セミナーが行われ、出席して参りました。



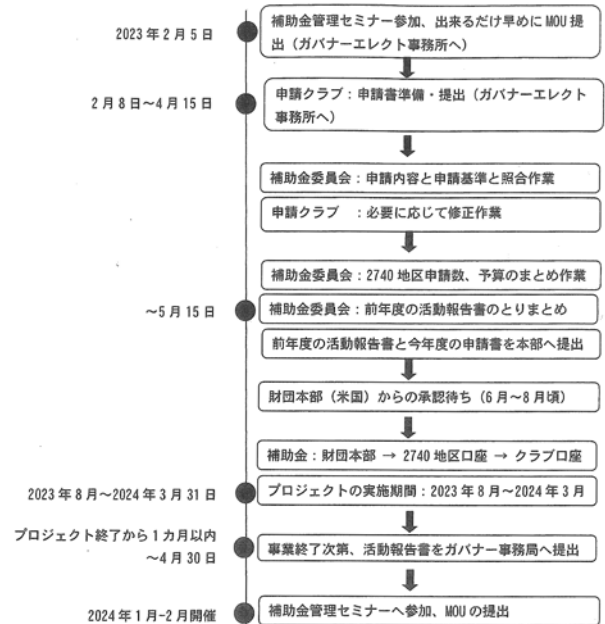
第1部の講話では、佐世保のタシロガラスの息子さんと、長崎大学病院・感染制御教育センター 副センター長の田代将人さんによる「新型コロナウイルス感染症の現在とこれから」というお話でした。この方は3月からアメリカのUCLAにグローバル補助金奨学生として留学されるそうです。

第2部では、佐賀RCの会員でもある佐賀医科大学 名誉教授 香月武さんの「グローバル補助金事業におけるモンゴルとのかかわりについて」という講話で、口腔外科の医療指導をされておりました。

また、続いてグローバル補助金活動報告という事で、同じく佐賀RCの会員で江口病院・ロコメディカル研究所 所長 江口有一朗さんのお話で、この方は肝臓の専門医で、同じくモンゴルでのウイルス性肝炎の医療指導をされていたそうです。

今回のセミナーは3年ぶりの開催だったらしく、講話に力を入れておられたみたいで、補助金申請についてはさらりと解説されておりましたので、後ほどゆっくりと勉強させていただきます。申請書の提出が4月15日までとなっておりますのでお早めにお願いますという事と、現在の為替レートが1ドル145円ですが、最終の補助金額は承認時点のレートに影響されるので、正確な予算を出すのが難しいとの事でした。

地区補助金のタイムスケジュール



朗遊会より

朗遊会 米倉洋一郎

第3回朗遊会の案内です。
3月25日(土) 11:15スタート
佐世保CCで行います。



慶 祝

親睦活動委員会 山口 幸生

○今月の誕生祝い

- 谷川 辰巳さん (7日)
- 中川 知之さん (11日)
- 山口 健二さん (12日)
- 梅村 良輔さん (15日)
- 河原 忠徳さん (18日)
- 梅村尚一郎さん (20日)



ニコニコボックス

親睦活動委員会 岩崎 正俊

池内 章雄 さん

佐世保南RCからメイクアップで参りました。よろしくお願ひ致します。

中村 徳裕 会長、福田 金吾 幹事
安部 雅隆 副幹事、庭木 香充 さん
中島 顕 さん、増本 一也 さん
廣瀬 章博 さん、橋高 克和 さん
永瀬 徳豊 さん、鈴木 清輝 さん
安福 竜介 さん、岩崎 正俊 さん
松本 祐明 さん、船越 温 さん
坂元 崇 さん、陣内 純英 さん
内海 暢邦 さん

西海みずき信用組合 地域振興室副室長 西信好真様の卓話に期待してニコニコします。

中川 知之 さん、山口 健二 さん
梅村 良輔 さん、梅村尚一郎 さん

誕生月のお祝いありがとうございます。

ニコニコボックス 本日合計 22,000円
累計 663,000円

卓 話

「学生支援を通じて感じる

答えのない学びの難しさ」

西海みずき信用組合 地域振興室副室長
西信 好真 様

本日は、佐世保ロータリークラブにお招きいただき、ありがとうございます。

私、西海みずき信用組合の西信好真と申します。



本日のテーマですが、「学生支援を通じて感じる答えのない学びの難しさ」という内容で、お話しできればと思っ

ております。まず、なぜ学生支援。学びといった、教育の支援を、金融機関である、西海みずき信用組合が行っているかというところの説明からできればと思います。

私たち西海みずき信用組合は、金融業務、融資等がメインの業務になっています。ただ、佐世保に本店を置き、長崎エリアで活動している私たちにとってですね。長崎全体としての発展がなければ、事業を継続することができないという組織になっています。

そのために、地域振興業務というものにも、力を非常に入れています。その中には、もちろん直接的な広報や販売であったり、事業者支援もあるわけですが、より中長期的な支援となる教育支援、そういったものにも力を入れております。そういった流れで、私たちは教育に関する活動を行っているということになります。

では、自己紹介をできればと思っております。先ほど、司会の方から紹介もしていただきましたので、少し簡単に説明をさせていただきます。私、現職が西海みずき信用組合の地域振興室という部署で、副室長をしております。

出身が愛媛県の今治市になります。その後、京都で大学に行き映画学校を卒業して、東京の映像コンテンツ制作の会社に就職しました。そちらでは、情熱大陸をはじめとした、人物ドキュメンタリーや、バラエティ番組、特撮のドラマなど、幅広く映像コンテンツ制作に従事しておりました。

その後、長野県上田市に移住をし、そこでワーキングスペースを運営している会社がありましたので、そこに所属しながら、マーケットイベントの企画であったり、長野ですから、豊かな観光資源を活かしたツアーの企画と運営、そういったものを行っていました。

その後、また東京に戻り、仕事をしていたわけですが、2018年頃から、西部九州エリアに来るようになり。嬉野で1年ほど仕事をしていました。ここでは今も、続けている「茶輪」。嬉野はティーリズムというものを推進しているんですけども、茶畑

を自転車で回ってお茶を飲みながら周遊しようといったような観光コンテンツの企画開発を行ったり、吉田皿屋地区という焼き物のエリアがあるのですが、そのボシという窯道具を使ったイルミネーションイベントの立ち上げなどをしたり。そういったことをしていました。

そして、2019年の4月から、佐世保に移住をしてまいりました。それから、佐世保で行ってきた活動を少しお話しさせていただきます。

大きなところでは「さきめし」というプロジェクトや「まちの学食」というプロジェクトなどをやってきました。「さきめし」というのが、コロナ直後に始まった取り組みで、店舗になかなかいけない状況の中で先払いでお店を支援しよう、応援をしようといった取り組みになっております。

これがうちの信用組合から、福岡のIT企業の方に話を持ち込みまして、2020年3月にスタートしました。そして、佐世保の四件目食堂が一号店で始まった取り組みなんですけれども、途中からサントリーさんが、1億円を投入して全面サポートに入ってくれるなど、全国的なコロナ禍における飲食店支援として展開をしていきました。そして、グッドデザイン賞のベスト100を受賞するなど、割と大きな動きとなった企画でした。

さらに、「まちの学食」という取り組みを行っておりまして、これは今も継続中なんですけれども、コロナ禍で困窮する学生に、無償でご飯を支援したいということで、企業の皆様から寄付を集めて、飲食店経由で学生に対して還元していく。そういったような取り組みになっております。

現在まで、2年間継続して、約3700食の料理を学生に提供しています。そして、これらの活動は日本フィランソロピー協会からも評価をいただいて、企業フィランソロピー大賞の企業賞というものを受賞しております。

さらに、この取り組みの中で、学生たちが企業からの寄付で食べさせてもらうだけではなく、自分たちでも何か恩返しをしたというような形で声を掛けてきてくださ

り、彼らと一緒に地域への恩返しのボランティア活動などをしていたりもします。

それでは、ここから本日のテーマについて、お話できればと思っております。

まず、ほんとに先週末の話になるんですけども、マイプロジェクトの長崎大会というものを実施しました。こちらが全国最大級の探究学習のプレゼン大会の長崎予選になります。

探求学習が何かっていうのは、後ほど、お話しするんですけども、まずこの大会に、長崎県内11の高校から、80チーム381名が参加しました。全国では、1万5000名以上の学生が参加するという大きなイベントです。

それでは、探求学習とはなんだというところで少し説明をします。これが、文科省が2022年の4月から必修化している、新しい教育プログラムになります。

どういったことを目的にしているかというと、未来の予測が困難な時代に、自分で問いを立てて、解決する力を育てる。そういった能力を高めていくことを目的としています。大体これが1年ぐらいかけて、毎週1時間とか2時間、授業の中で取り組んでいくわけなんですけれども。それぞれの学生の興味関心に基づいて、課題を設定します。大体、地域課題、地域の悩みとかをテーマにすることが多いです。

ここで、文科省は、主に4つの力をつけるということを目指しています。1つが「課題の設定」、次が「情報の収集」そして、集めた情報を「整理分析」する力。最後にそれを、外部に対して伝えていく「まとめと表現」の力という4つの力を育てることを目標としているカリキュラムになっています。

従来型の「教科の学習」と、新しい「探求の学習」というのが、対称的な単位になってくるんですけども、「教科の学習」というのが、基礎学力というか、今まで皆さんがイメージされるような5教科、そういったものを考えてもらうといいと思うんですけども、教科書。答えがある問題を記憶し、早く正確に答えるような力を必要とするのが「教科の学習」です。

それに対しての「探求の学習」は、もう、問いそのものを自分で立て、自分で答えを見つけていく。そういう力を育てようということになります。

前提として、未来予測が困難な時代に備える力というような話をしましたけど、その実例として少しお話をします。

皆さんもニュースなどで、AIの技術がすごい進んでいるというような話を、耳にすることが多くなってるのかなと思います。

こちらの2枚の絵。すごく上手な、本当に東京芸大卒業生か？みたいなものすごい精緻な絵なんですけれども、これもAIが描いた絵になります。しかも、これは自然言語、言葉ですね。「オレンジ色の宇宙服を着た、外国人の女性。油絵のタッチで。」といった形で言葉で指示した中で、AIが自動で1分も経たないうちに書き上げてくる。そういうシステムになっています。

本当に、今年の夏以降、AIの進化速度がすごく上がっている感じがあります。なので、ずっと以前より、未来予測は困難というようなことは言われていましたが、さらに予測しづらい状況になっているかなという感じがします。

この画像がニュースのスクリーンショットになるんですけれども。アメリカのペンシルベニア大学のMBAの試験をチャットGPTと言われるAIのシステムが、合格してしまったというようなニュースになっています。

本当にそういった形で、あらゆる産業に影響が出てくる。結果としてですね。今の若い子たちが、就職する時の仕事がどうなっているのかっていうのは、かなり予想がしづらい感じがします。

少し、おまけ的に。これ何の絵かわかりますか。

これは、1年前のAIが描いたピカチュウの絵です。なんとなく黄色くて面影は感じると思うんですけれども。これが、1年前はこのぐらいのレベルでも、「おお、すごい！」って、みんな感心して、「面白いね」という話をしていたんですけど、たった1年経過する中で、もう、こういった先ほど見せたよ

うな、ものすごく高度な技術を感じさせる絵を書いてくるようになりました。この間たったの1年間。いや、半年ぐらいだったかもしれないです。実質は。なので、ちょっともう本当に来年どうなってるかっていうのは、もう予想がつかないというようなところはあります。

そういった、本当に未来の仕事が予測できないという中で、これからの教育は変化し続ける世の中で、自分で問を見つけていく、自分で答えを作っていく。というようなものに、文科省としても、力点をすごい置いているということが分かります。

ところが、そういったカリキュラムに対して、すぐには学校側も対応しきれないというのが現実としてあります。

探求学習というのは、地域課題の発見をして、それを社会実装するという、そういった流れが大きな目標としてあるわけです。言ってしまえば、教室と教科書の外にある全てのものが対象になってきます。

その範囲は、幅広い分野での知識が必要となるため、先生という1人の個人の知識で、全てをカバーするというのは相当難しい。これは別に先生に限らず、個人でカバーできるような学習の範囲ではなくなってきています。

例えば、学生たちが興味を持った業界の専門知識、地域の細かい情報、集めたデータの分析手法。世の中に発信する場合の広報やPRのやり方。あるいは、アプリやウェブサイトが必要であれば、プログラミングの知識がいるでしょうし、商品開発となれば、マーケティングのノウハウも必要になってくるでしょう。これを全部できる人っていうのは、なかなかいないと思います。さらに、それが全ての学校で対応できるかと言ったら、まずできないというのが現実としてあります。

ここで具体的な、学生たちの探求学習にどんなものがあるのかというのを、ちょっとお話していきます。

約1年間の探求学習なんですけれども、これがまさに先週末に発表してくれた学生たちの探究の内容を見ていこうと思います。

まず五島高校の発表です。「風車を回して、五島を回せ」というようなタイトルがついていますが。これは、洋上風力発電事業が盛んに行われているということで、それを、地域としても推進して、街や島ぐるみで応援をして産業として育てていきたい。そういうようなことをイメージして、調査を行ってくれていました。

この場合も洋上風力発電に関する町の人のアンケート。あるいは、漁業関係者、「洋上風力発電ができることで、漁場が荒れてしまうんじゃないか」というような懸念をしている関係者へのヒアリングなども行っていました。

こういった業界の専門知識や、島の人に知ってもらうために、広報PRのノウハウ。そういった知見も、この探究の中には必要な能力として含まれています。

次が、諫早農業高校の発表です。これは、在来野菜を使った新しい野菜を作る。そして、地域の在来野菜を守りたいという農業高校らしいテーマの発表でした。実際に農業高校なので、もう商品として開発をするところまでやっていました。

そして、地域のイタリアンのお店に、それを卸すというところまでやっているんですけど、さらにこれを全国的に売っていくとなると、広報PRやマーケティング、そういった知識がさらに必要となってきます。

なので、実際の探究の発表を見ても、どこまでも深く、勉強する。教えていこうとすると、相当な知識が必要になってきます。

これは、現場や学校側の体制が整うまでかなり時間かかる感じがするので、それに対して、地域の企業や市民が、どれだけ教育に協力したかということで、若者の成長にだいぶ格差が開いてくるんじゃないか、という懸念を個人として持っています。

ここで、1つ僕が実際に見た企業と連携している探求学習の事例を紹介します。これは和歌山県で行われていた、データ活用をした探求学習、課題解決に関する、プレゼンコンテストです。

僕は、佐世保西高校の応援という形で、それを見ていたんですけども、優勝した

高校の発表がすごく印象的で、姫路西高校さんなんですけれども。公民館でオンライン診療をしようというような内容で、その調査がすごく専門的で高度な内容でした。

実際の資料から、一部ちょっと抜粋しているんですけども、公民館のデータを拾ってきて、それをパイソンというプログラミング言語を使って、地図に落とし込んで可視化しています。

「Kミーンズ法で3つにクラスタリング」など書いてるんですけども、大人の僕でも、これはなんだ？っていう専門的な技法を使って、データを抽出し、データの処理をしています。

そして、こうした形に実際にマップに落とし込んで、「ここの公民館がいいんじゃないのか？」という候補を選んできている発表になっています。課題の選定とかはもちろんなんですけれども、調査分析の技法がすごく高度に洗練されている。

で、これはなんだろうというので、ずっと最後までスライドをじっと見てたんですけども。そしたら、協力のところに、リジョウイという企業名が入っていて、調べていくと、東京のデータサイエンスの会社が発表の指導に入っていました。

なので、本当にプロのノウハウが学校の授業の中に盛り込まれているんだなというのが改めて理解できました。この時、西校の生徒たちもすごくいい発表をしていて、実際に賞をもらえたんですけども、技術的な深さという部分では、少し見劣りするところがありました。これは別に学生の資質がとか学校の指導がどうこうという話ではなくて、周りのサポート体制の違いだと思います。2つのチームの発表は、全く同じプログラムで提供されているわけなんですけれども、どれだけ民間と学校が連携できるかということで、子供たちに教えることのできる内容が全然変わってきてしまう、そういうのを目の当たりにしたということがありました。

なので、探求学習で、重視されるような4つの力を育てるために、地域や社会をもっと知ってもらい、好奇心と情熱を引き出す。

そして、テクニカルな部分でもサポートしていくというようなことを本当に街ぐるみでやっていく、そうする必要があるのでは、という風に思っています。

そうした中で、子供たちの情熱を引き出し、新しい挑戦をどんどんできるような場所や機会を用意していく。そうすると、個人の資質、才能をすごい伸ばすような、若い子たちが出てくるんじゃないかという風に思っています。

最後に、佐世保コーヒースクールというような形で、私たちも、そういう場作りをしています。これは、半年ぐらいかけてコーヒの淹れ方と、スモールビジネスのやり方を、勉強していくという内容です。弊社含めた5社でサポートをして、大学生に対してそういったプログラムと場所を提供しています。ハッピートレイルズコーヒーさん、フォーオールプロダクトさん、させぼ通信さん、デザイン373さんという、そうした4つの企業と連携して学生の場作りを行っておりました。

こうした形で、色々な学生からの、こういうことに挑戦してみたいとか、こういう企業のお話を聞いてみたいなど、リクエストが今後も出てくると思っていますので、そういった場で、ぜひ皆さんと一緒に、学生たちを育てる手伝いをしていけたらと思っています。

私自身は、教育の専門家でもなんでもありませんので、なかなか力の足りない部分もあると思うんですけども、ぜひ皆さんと一緒に次世代の若者を育てるような活動を、一緒にやっていけたらすごく嬉しいなと思っております。私からの発表は以上になります。

本日は、ご清聴ありがとうございました。

【略歴】

立命館大学中退、日本映画学校卒業。東京の映像制作会社「東北新社」に就職。情熱大陸などのドキュメンタリーや映像コンテンツ制作に従事。その後、長野に移住。コワーキングスペースに所属し、観光ツアーやイベント企画、地域企業の広報などを担当。以後、東京と地方にてコンテンツ企画・運営などで地域振興に関わる。2019年より佐世保に移住。現職では、グッドデザイン賞ベスト100「さきめし」やフィランソロピー大賞企業賞「佐世保まちの学食」などの企画や運営を行う。



今後の例会予定

- 2月15日 創立記念日例会
パストガバナー 安部 直樹 さん
22日 新会員卓話 梅村尚一郎 さん
(株梅村組 代表取締役社長)

西海学園高等学校インターアクトクラブ例会予定

未定

長崎国際大学ローターアクトクラブ例会予定

未定

- *西海学園IAC、長崎国際大学RACにご出席されますと、
メイクアップにもなりますのでご活用ください。
*RACへご出席される方はお食事の要・不要の確認をいた
しますので、事務局までお知らせください。

(今週の担当：大塚 隆夫)

(カメラ担当：庭木 香充)

クラブ会報・広報委員会

委員長：吉田 英樹
副委員長：中島 颯

委員：船越 温・中村 真弥
大塚 隆夫・庭木 香充